

学校運営計画 (4月)				評価 (3月)
学校運営方針		校訓「至誠・自立・識見」を掲げ所に、志をもって広く学び、たくましく生き抜く力と豊かな人間性を培い、公共のために尽くす生徒を育成する。		
昨年度の成果と課題		本年度重点目標	具体的目標	
校訓「至誠・自立・識見」を掲げ所に、学校教育活動全般においてここ数年にわたり着実に成果を上げてきた。平成29年度に迎える100周年に向け、あらゆる教育活動において「社会を生き抜く力」を培い、心身ともにたくましく、高い知性と豊かな人間性を備えた生徒を育成する「新生筑紫中央高校」の創造を目指す。「新生筑紫中央高校」を創造するため、福岡県学校教育振興プラン「ふくおか未来人財育成ビジョン」の理念の下、次期学習指導要領などの中央教育審議会の動向を注視しながら、新しい時代にふさわしい本校教育を総力をあげて探究し、全教職員が協力・協調して組織的・計画的、より積極的に教育活動を展開する。		1 主体的に学ぶ生徒の育成	学習指導要領の趣旨に則り、基礎・基本の知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力や主体的・共同的な学習態度を育むとともに、生徒一人一人の習熟度に応じた質の高い授業を展開することにより、学習の定着度と学習への意欲を高める。	
		2 規律ある生活習慣の定着と感動体験の重視	さわやかな挨拶・端正な服装・時間の厳守・自転車乗車等の交通マナーの遵守・場に応じた適切な言葉遣いなどを含めた基本的な生活習慣の確立を目指す。また、学校行事・生徒会活動及び部活動等を通して感動体験の場としての教育の充実を図るとともに、創立百周年記念事業への取組を通して母校を愛する心を育む。	
		3 高い意識での進路実現の達成	全ての生徒に自己の理想を追求させ続けるとともに、社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成するキャリア教育の充実により第一志望での進路実現を可能とする個に応じたきめ細やかな進路指導を図る。	
		4 人権教育の推進「いじめの撲滅」	異なる個性や生き方、考え方及び価値観を互いに認め合い、人を思いやり、自他を敬愛し、尊重する人権教育の充実を図るとともに、道徳教育のさらなる進展を図る。	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題
学習指導	教師の授業力向上	教師一人一人が、生徒の興味・関心を引き出し、学力向上を図る授業への進化を目指す。 アクティブラーニング型授業・ICT等の活用を積極的に行い、自己研鑽を行う。 各教科年間学習指導計画を十分検討し、学習到達目標を明確化する。		
	生徒の基本的習慣の確立及び人間力・学力の向上	二者面談や学習オリエンテーション等を活用し、生徒の学習意識を喚起する。 毎時の授業規律を確立させるとともに、家庭学習の習慣化を図る工夫を行う。 100周年に向け、飛躍するための学習環境を整えることを全職員で行う。		
	ホームルーム活動、総合的な学習の時間の有効活用	生徒指導課・進路指導課と連携し、キャリア教育・道徳教育の充実を図る。 各学年テーマに沿ったホームルーム活動・総合的な学習の時間を全職員で指導する。 奉仕活動の取り組み等公共のために尽くす喜びを体験させる。		
	学習評価・学習指導の在り方について検討と学校広報の充実	教育課程の評価と改善、学習評価、学習指導の在り方の検討と改善を行う。 類型及び習熟度別編成クラスに関する評価と改善を行う。 中学生の体験入学や学校訪問等を利用し、積極的に学校広報活動を行う。		
生徒指導	自他を敬愛し、尊重する人権教育・道徳教育の充実	「挨拶」や「時間厳守」を励行させ、創立100周年に向け、活気ある学校を職員全体で創り上げる。 いじめアンケート等を活用しながら生徒の生活状況を把握し、いじめの早期発見・対応を行う。 学校行事や部活動の活性化を図り、異学年間でも自他を敬愛する「絆づくり」を促進する。		
	規範意識の向上、自己指導能力の会得	生徒会活動を推進し、その活動を通じ、自己指導力を養う。 職員全体でルールを守る意識を育て、生徒の規範意識の向上を図る。 二者面談等を活用し、生徒とのコミュニケーションを大切にして、人権感覚の育成を図る。		
	生徒会活動及び部活動の活性化	百周年記念の「プレ卒都祭」「プレ体育祭」等学校行事の運営を通して、リーダー性を養い、生徒会活動の一層の活性化を図る。 学期毎に部活動関連の集会(結団式・激励会・壮行会等)を実施し、感動体験の場として充実を図る。 学期毎に部活動の部長等研修会を実施し、リーダー育成し各活動の活性化を図る。		
	交通安全教育の徹底及び社会ルールの習得	登下校指導を学期毎に実施し、規範意識を醸成し安全教育を徹底を図る。 自転車通学者に対し、自転車点検や通学者指導を行い、危機管理意識を高める。 交通被害者の講演会等を実施し、命の大切や社会ルールの大切さを習得させる。		
進路指導	望ましい勤労観・職業観の育成と進路意識の向上	外部講師を招いて、キャリア教育講演会を実施する。 同窓会を通じて本校OBを招き、「ようこそ大先輩」と称した講義を実施する。 小論文指導を通じ、自分の将来を見つめ、表現させる。		
	進学への目的意識の明確化と目標の設定	オープンキャンパスに積極的に参加させ、進学意識を高めさせる。 大学の合同説明会「夢ナビライブ」に参加させ、大学の学部学科について考えさせる。 国立大学80名、西南学院大学180名の合格者数を目指す。		
	生徒一人ひとりの進路希望の実現	スタディサポートのデータを研究し、一人ひとりに丁寧で細やかな個人面談を実施する。 3年間の進路指導計画を明示し、長期的な視野に立った計画的な進路指導を行う。 2年次末に「第1志望宣言」を書かせ、目標を明確化させて粘り強い努力を促す。		
	教職員のキャリアガイダンス能力の向上と新課程入試への対応	志望校検討会により教員間で生徒の最新の情報を共有し、生徒の進路実現に繋げる。 習熟クラスの特徴を活かし、課外授業以外に進路希望に応じた特別講座を実施する。 新課程入試についての情報収集に努め、生徒・教職員に周知する。		

研修図書	指導力向上に資する職員研修を行う	アクティブラーニングやICT活用の研修を行う。			
		授業アンケートを年2回実施し、その結果を分析して授業の質の向上を図る。			
		相互授業参観期間を年2回設定し、全職員一人2回の参観を徹底する。			
読書指導、図書館広報活動および刊行物の充実		全学年で「朝の読書」に取り組み、図書貸し出しの増加を図る。			
		諸行事における活動を通じて、図書委員のリーダー育成を図る。			
		各種刊行物において、100周年に向けて内容の充実を図る。			
企画広報	各分掌との連絡・調整及び円滑な行事の企画・運営	100周年に向けて、儀式関係行事の円滑な実施と見直しを図る。			
		年間・月間行事予定を提示し、教育活動の円滑化に寄与する。			
		危機管理マニュアルを見直し生徒の安全・安心な環境を整備する。			
	学校内外向け文書作成及び生徒の就学支援や職員の職場環境向上	学校要覧、入学の手引、職員住所録、緊急連絡網等各種文書の迅速かつ適正な作成。			
		各種奨学金の案内や手続きを円滑に実施し、生徒の就学支援に努める。			
		職員室机・ロッカーの配置や備品等の充実を事務室と連携して実施する。			
	学校内外の諸活動の広報・PR活動の充実	学校ポスター・学校案内のリニューアルを進め、中学校訪問に活用する。			
		中学校PTAの学校訪問並びに中学生一日体験を積極的に受け入れ、広報活動の充実に寄与する。			
		現行ホームページをCMSへ移行させ、内容更新の迅速化を図り、情報公開を推進する。			
	PTA活動の活性化及び教育活動の充実・発展への寄与	創立100周年に向けて、PTA・同窓会との連携を強化する。			
		PTA総会や役員会等の円滑な運営を行い、PTA活動の活性化を図る。			
	保健	学校保健活動の充実を図る	定期健康診断、健康教育増進事業の充実により生徒の健康維持・促進を図る。		
生徒が安心して学校生活を送れるよう保健室の有効利用を推進する。					
生徒保健委員会の育成により健康意識を向上させる。					
安全・安心な学校生活に向けた学校保健活動への意識向上を図る。					
教育相談（生徒相談、カウンセリング）の充実を図る		教育相談委員会、学年教科連絡会、特別支援教育推進委員会の活性化と情報の共有化により生徒支援体制を充実させる。			
		サブ・特別支援教育コーディネーターの配置、支援を必要とする生徒の早期発見、早期支援によるインクルーシブ教育の推進を図る。			
		個人面談、アンケートの有効活用による安全・安心な教育環境の整備を図る。			
		スクールカウンセラーとの連携による心の健康の維持・増進を図る。			
校内及び学校周辺の美化清掃に努める		全校生徒による清掃活動を徹底することで環境衛生意識の向上させる。			
		ゴミの減量化と分別指導を徹底することで持続可能な社会への参画意識を醸成する。			
		学校周辺感謝デー、美化強化週間の有効活用することで美化意識を向上させる。			
		生徒美化委員会の育成による健康教育の充実を図る。			
人権教育	人権意識を持った教育の遂行及び、互いを尊重し合える生徒の育成	本校の課題に応じた職員研修を実施し、職員の意識を高める。			
		校外の様々な研修会に各教師が積極的に参加し、研鑽に努める。			
		各教科の授業をはじめ、すべての教育活動で人権意識を持って生徒に対する。			
	社会・学校環境における人権問題の課題把握及び教育活動への活用	人権・同和教育推進委員会から人権問題の課題等の情報を職員に伝達する。			
		人権教育学習会の事前準備を徹底する。			
		地域や保護者との連携を密にする。			

註 評価 A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった